

資料 (2) 「問い」を確かにする段階

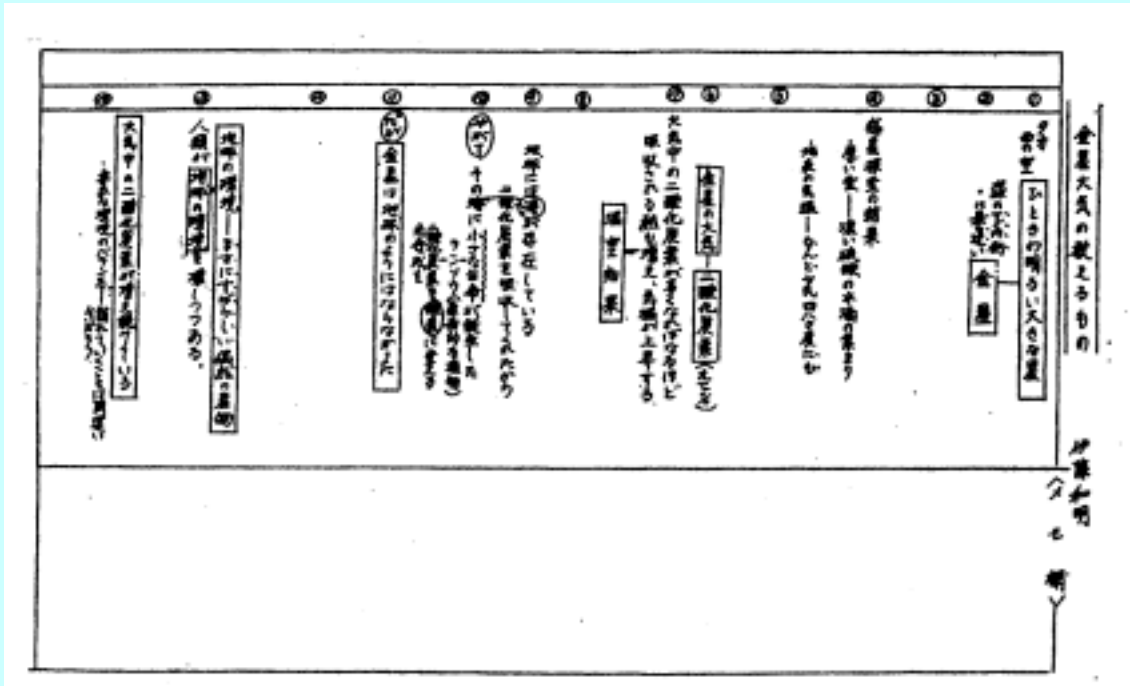
(2) 「問い」を確かにする段階

感想の発表

大まかな全体の構想・展開の把握

資料：生徒用ワークシート 1

生徒の発表を全体構造の中で位置づけて板書する。それをワークシートにしたもの



この授業でのワークシートとは

(2)の「問い」を確かにする段階では、(1)の「問い」を持たせる段階で出た生徒の感想や疑問・気づきを、まず発表しました。その生徒の発表したものを教師が構造的に板書したものが上の資料になります。ここでは、生徒に自由に発表させ、その発表内容に関係した感想をもった生徒がいれば、その子に次は発表してもらおうといった形で授業を進めました。また、この段階では、生徒には時間の関係上ノートをとらせず、後で教師がその板書をそのままワークシート化したものを渡すこととしました。そして、そのワークシートに生徒がそれ以降の授業の板書やメモを書き込んでいく形にしました。

こうして生徒の感想・疑問を構造的に位置づけることにより、実は、生徒はみんなの感想を聞きながら、大まかな全体の構想・展開を同時にみていることになります。中でもった「問い」や気づきは(3)の「問い」に基づく「読み」の段階へとつながり、筆者の想の展開や筆者の述べ方に迫るものになっていったと思います。

板書の工夫

次の授業からは、OHPを利用してそのTPに教師が板書の代わりに書き込んでいきました。(OHPだけでなく、大判用紙やプロジェクターを利用すると、見やすい板書になります。)そして、他の生徒の発表を聞きながら、気づいたこと、疑問に思ったことは、ノートにメモし、授業の中で発表をさせました。

そうして、生徒が発表や自分の気づき、疑問等を書き込んでいったものが次に載せている資料「生徒用ワークシート2」です。生徒、個々の感想や気づきを板書として構造的に書いていく上で、大変役に立ったのが、先ほど紹介しました教師側の教材構造図でした。生徒が思い思いに述べる感想をどう板書として全体構造の中に位置づけていけばよいのか、教師の中に全体構造図があるのとないのとでは、全く違ったものになってきますし、後の生徒の新たな「問い」にも関係してくるようになります。